

第3回 佐倉市公共施設再配置審議会会議 議事録

日時	令和6年2月28日(水) 午前9時30分から午前11時45分まで
場所	1号館6階会議室
出席者	○出席委員 柳澤 要委員、堤 洋樹委員、三枝 康雄委員 若狭 正伸委員、大内 俊郎委員、東條 寛樹委員 以上 6名 ○事務局職員 織田資産経営部長、谷田部資産経営課長、橋本副主幹、早川主査、木勢主査補 ○傍聴人 2人
配布資料	資料1 アンケート集計結果概要版 資料2 市民ワークショップの開催について 資料3-1 再配置方針本編(中間案)(案) 資料3-2 再配置方針資料編(中間案)(案) 資料4 事前意見まとめ
議事	① 市民アンケートの結果について ② 市民ワークショップの開催について ③ 佐倉市公共施設再配置方針(中間案)について

## 1 開会

## 2 議事

### 【事務局】

本日の会議は堤委員と三枝委員がオンライン参加、柳澤会長、若狭委員、大内委員、東条委員が会場参加となっております。

それでは柳澤会長、よろしくお願ひいたします。

### 【議長】

よろしくお願ひします。本日の出席委員は5名出席しておりますので会議は成立しております。

それでは議事録署名人の指名をさせていただきます。議事録署名人は若狭委員と大内委員にお願いしたいと思ひます。若狭委員と大内委員には後日、議事録の確認等と署名をよろしくお願ひします。

なお、本日の会議につきまして、佐倉市情報公開条例の規定により、会議は原則公開となっておりますが、一部非公開とすることについて事務局から説明をお願ひします。

### 【事務局】

本日の議事③の佐倉市公共施設再配置方針中間案については、本日の審議会の意見を踏まえた内部での最終確認など、庁内での最終的な意思決定がされていない資料についてご審議いただくものです。

佐倉市情報公開条例第7条第5号及び第6条に規定する不開示情報に該当する事項が含まれているため、非公開といたします。一部非公開とすることにつきましては、佐倉市情報公開条例第20条及び佐倉市審議会等の会議の公開に関する要綱第3条の規定により、第1回会議で決めた運営方針に基づいて、会長の承認をいただひて決定しております。

### 【議事① 市民アンケートの結果について】

### 【議長】

議事①市民アンケートの結果について審議します。昨年末に実施したアンケートの結果について事務局から説明をお願ひします。

### 【事務局】

(資料1に基づいて説明)

**【議長】**

ただいま事務局から市民アンケートの結果について説明がありました。何かご質問、ご意見等があればお願いします。

**【大内委員】**

ウェブの回答について、回答者の年齢層を教えてください。

それから概要版の⑥について、学生交流機能、設問の設定がそもそも好ましくなかった、設問の理解が十分ではなかったのではないかと判断した点についてですが、どうしてそのように思われたか教えてください。若い方がわざわざこのような場所に来て交流する必要があるのか、今では交流するにも色々な手段があるわけで、そもそもその施設自体の目的が失われているのではないかと個人的には思っています。

**【議長】**

事務局から回答をお願いします。

**【事務局】**

まず、QRコード専用アンケートで回答をした方の年齢層については、一番多いのが30代で21.7%、次は40代で19.9%です。それから50代60代70代と高齢の方が続き、10代20代の若い方については、4.1%、3.4%で回答者数の1割に満たない状況です。

それから2点目のご質問ですが、大内委員のおっしゃるとおり、「若い方が自分たちが集まる施設をあえて要らないと判断している」、「自分たちがわざわざそこに集まる必要がない」と考えた結果かもしれないという可能性も考えられますが、このアンケートではそこまで踏み込んだ調査はできていません。

今後予定されているワークショップで、直接若い世代にヤングプラザや学生交流機能がある施設について考え方を聴く予定です。

**【議長】**

アンケート結果で学生交流機能は不要と回答した方の中で、どれぐらい利用している方がいるか、また、若い方とそれ以外の方がこの学生交流機能の施設についてどう思っているのかはつきりとしな部分があるので、クロス集計でデータを少し深く分析して傾向を確認する必要があると思います。

不要と回答した回答者を、年齢別にクロス集計するとか、設問2. 施設の利用状況にある「利用したことがない⇒利用対象ではない」の部分とクロス集計してみてもどうでしょうか。例えば、老人憩の家を「利用したことがない」方は多いと思いますが、利用可能対象の方のうちどのぐらいの方が利用していないのかといった分析をしてみると傾向がはっきりすると思います。おそらく、老人以外の方が老人憩の家を利用することはほとんどないと思います。データ分析の仕方を意識すると、傾向がはっきりしてくると思います。

あとは「民間サービスに移行すべき」という肢ですが、メリットとデメリットをどのあたりまで理解されて回答されているのかははっきりしません。何でも民間に移行すればできるだろうと考えているかもしれませんが、移行しにくい施設というのもありますし、もう少し条件を示した上で確認すると回答が変わってくると思います。ワークショップで確認してもいいのですが、ワークショップでは対象になる人が限られるので難しいかもしれません。

今あるデータを使ってさらに深く分析するのは大変だと思いますが、ご検討いただきたいと思います。

他に何かご質問ご意見ありますでしょうか。

#### 【三枝委員】

郵送式の無作為抽出のアンケートと Web で自由に答えてもらうアンケートとは、特に後者の方にバイアスがかかると思うので、アンケート報告の中では特に違いがありませんでしたとご説明されましたが、それならばその内容をどこかに記載した方が誤解を招かずに済むと思います。

できれば Web 専用アンケートと郵送アンケートは分けて結果表示をして、それとは別に合算した結果を表示する方が、情報操作をしているのではないかといったような変な疑いをかけられずに済むという意味では安全だと思っています。個別の中身ではなくて、方法論の違いをきちっと表示した方がいいと感じました。

#### 【事務局】

掲載方法について検討をさせていただきます。

#### 【若狭委員】

アンケート集計結果の4番目、公共施設を適切に維持するためにどうすべきかという質問に対して、回答内容の上位3項目が掲載されていまして、これを見ると「利用頻度の低い公共施設から統廃合すべき」と7割近い方が回答しています。あとは民間のノウハウを活用等と続きますが、この回答にある「利

用頻度の低い」というのは、確かに絶対的な利用数が低いから必要性が低いだろうというのは一般の常識として考えられますが、一方で、その施設が存在していたことも知らないし、どんな機能があるのかも知らないと回答している人がいます。

このような状況なので、一般論として利用者が少なくても、使わないなら無くてもよいという話の他に、施設の存在を知っていれば行ってみたい、使ってみようという回答になることもあると思います。その辺を考慮すると、このアンケートの結果を単純に捉えて、使っていない施設なので要らないと単純に言えないケースもあるのではないかと思います。この辺のギャップ、施設の存在や機能について周知の仕方がどうだったのかをもう少し管理者として把握した上で、できればワークショップのときに周知指導みたいなものをもう一度確認してみる必要があるのではないかと思います。

#### 【議長】

自分がよく使っている、知っている施設であっても、こういう質問をされると、一般的には利用度が低い施設は優先的に廃止するという話になると思います。具体的な名前が上がり、さらに自分が実際に使っていると、これは大事だと回答したりします。ワークショップは地区ごとに実施されますが、自分の地域以外であまり関係ない施設は利用がなければ廃止としていた施設でも、自分の地域になると、利用率は低くて赤字を垂れ流していても、大切な施設だと主張することがあります。

具体的な地域や施設の名前が出てくると当事者意識が出てきますが、そこは難しいところで、皆がそう言い始めたら何も変わらなくなってしまうため、ある程度痛みも伴うようにしなければならないと思います。その辺をどう判断していくか検討が必要だと思います。

一般的な話として、総論賛成各論反対みたいな話になってくる気もしますが、事務局の方でご意見はありますか。

#### 【事務局】

周知が足りていないせいで施設を知らなかったのだから「知らない」と回答してしまったという可能性はあると思います。このアンケートからそこだけを抽出するのは難しいですが、自由意見のところから「このアンケートが届いて、同封されていた施設一覧を見て初めて、佐倉市にどういう施設があるのかを知った」というご意見もありましたので、周知はやはり不十分だったと考えます。

再配置に関連してというのは難しいと思いますが、周知をより推進していくよう、各施設管理者の方へお願いしようと考えています。また、アンケートの

結果については庁内でも報告をして、施設を知らない人が住民の中には多いという報告もします。

周知をすることで施設の利用率は変わるかもしれませんが、もっと施設を使ってもらえるように住民へのアピールを行い、それから利用率を集計する流れを作れたらよいと考えております。

#### 【議長】

施設を知らないけど廃止した方がよいと回答した人は、再配置の問題をあまりよくわかっていないということなので、逆に、施設を利用しているし、よく知っているけれど、施設をなくしてもよいと回答した方がもしいるとすると、そちらの考えを持っている方が重要だと思います。

施設の周知をして利用率を上げていくのは、当然方法としてあると思いますが、現状として、施設をよく知っている、時々使っているけれども「施設は必要ないんじゃないか」、「もうちょっと効率化しないと」といった回答がどのぐらいあるかというのは、再配置を実施する現状として把握しておく方が望ましいと思います。

アンケートの中で、「普段利用する」、「知っている」という欄をチェックした上で、否定的なご意見を出されている人がどのぐらいいるのかであれば確認することができると思うので、現状の把握として分析するようお願いいたします。

ほかに何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

#### 【堤委員】

各委員からのご意見は予想される傾向だと思いますが、逆に言うと、施設を知らなくても何とかなっているという言い方もできます。結果だけ見るとちょっとどうかという気もしないでもないですけど、これがある意味現実なのかなと思っています。私は先ほどご提案があったように、例えば最初の回答数のところで、Web アンケートか郵送かの違いだけを載せるぐらいでいいと思います。

先ほどの概要版の4番の回答ですが、3や4以降は例えば、利用者とそうじゃない人がどのぐらいいるかということグラフの中に入れていただければいいと思います。

#### 【議長】

他に何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

(質問、意見なし)

またこれに関連することがあればこのアンケート結果を参照するというのもあるかもしれませんが、議事①については以上として次の議事に移りたいと思います。

#### 【議事② 市民ワークショップの開催について】

それでは議事②市民ワークショップの開催について、事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局】

(資料2に基づいて説明)

#### 【議長】

全体は4回ですが2回目3回目は各地域でやるので実際の回数としてはかなり多い形になるかと思えます。

内容や参加者の募集方法など、何でも結構ですのでご意見ご質問があればよろしくをお願いします。

#### 【大内委員】

ワークショップの目的と何を優先的に審議するかという点、得られた意見の反映の仕方や、どの程度反映できるのかということを明確にしておいた方がいいと思います。ワークショップではグループ分けを年代別にする予定とのことですがコーディネーターを配置するのでしょうか。

また、開催案内文はもう発送したということですが、こういった内容か差し支えなければ教えてください。

#### 【事務局】

ワークショップの目的は、市民の方に「公共施設の再配置は財政問題である」ということを認識してもらうことです。市が現在保有している施設を維持管理していくことが財政上難しいという共通認識ができるのが1つの目的です。それに加えて、各地域で「こういったことができるんじゃないか」、「こういったことがこの地域では大切だ」という、個別の施設についてというよりも地域で大切にしたいことを考える意見が出てくれば、ほぼ目的は達成できると考えています。

反映の方法については、そこで出た意見を全て公共施設再配置方針に反映するのは難しいことだと思います。ある地域では正しいかもしれない意見が、全体で見たらそぐわないということもあると思いますので、ワークショップでいろいろ検討しながら、一定の反映ができるような形を考えます。

コーディネーターについては、柳澤先生にもご協力いただき、千葉大学の学生がコーディネーターとして参加いただけるというお話ですので、世代別でグループを組んだ際に子どもだけのグループにもコーディネーターを配置して、うまく進められるような形をとることを考えております。

郵送した案内文の内容は、資料2をまとめた内容と、地区ごとの開催スケジュールを合わせた内容でお送りしており、参加応募用紙を同封しています。資料2の6ページ目の広報誌掲載案が案内文の内容になっています。

**【議長】**

案内文はこれをそのまま使って作成しているのですか。

**【事務局】**

そのままではないですが、大体このような内容を記載して、A4用紙表裏の1枚で作成しています。

**【大内委員】**

ワークショップでは地区ごとにある程度取りまとめをされるということですが、質問が出た場合は、ワークショップの中で回答されるということでしょうか。

**【事務局】**

ワークショップの中での質問は、その場でご回答いたします。

**【大内委員】**

募集の案内について、突然受け取った方には理解が難しいのではないかと思います。我々はいろいろと状況をお聞きしていますし、アンケート等でしたらまだ何となく理解できると思いますが、アンケートに回答した方に対してというわけではなく無作為抽出なので難しいと思います。

**【議長】**

過去の経験からすると、ワークショップの会場では質問が来たり要望が来たりします。おそらく我々の学生がコーディネーターとしてついたりしても、住



民でもないので答えられないことがあると思います。今回特に各地域で分かれますので、全体的な進行や何かあったときにいろいろ事務局が表に出ていただくか、コンサルの方に毎回全体をリードしていただく必要があると思います。

年配の方のグループはリアルな話をすると、役所にいろいろな質問がくる可能性もあるので、その辺の対応や進め方をどのように考えているのか教えてください。

#### 【事務局】

今の時点では、ルールを必ず事前に設定し、コーディネーターとして先生方に全体の進行をお願いすることを想定しております。私どもはあくまで裏で質問を受けてお答えするような形を想定しています。

#### 【議長】

私も全部参加できるわけではないので、どなたか進行する方を決めていただいた方がよいと思います。

#### 【事務局】

それは湯浅先生との調整になるかと思いますが、私どもが直接市民の方と相対するよりも、第三者の方にコーディネーターをやっていただいた方が市民の皆さんも受け止めやすいというイメージがありますので、全体の進行やコーディネーターをお願いしたいと思います。

#### 【議長】

その辺の調整についてはこの場で議論すべき話ではないので、また後ほどお願いします。

#### 【堤委員】

2つほど確認させてください。まず1つは第3回のテーマについて、目的や趣旨をもう少し明確にする必要があるのではないかという点です。このままですと、何を議論していいのかわからないし、いろいろな施設があるので、深い議論になりません。例えば年齢別にグルーピングするのであれば、その年代の対象の施設について議論するのはどうでしょうか。高校生までなら学校などに対象を少し絞ってあげた方が議論はしやすいと思います。先ほどの財政の話をしたのなら、別の工夫が必要だと思います。お子さんに財政の話をするにしても、もう少し議論していただいた方がいいと思います。ちなみに私は年代別の

ワークショップで、お子さんを入れて何回かやっていますが、何も問題ないというのが毎回の感想ですので、ここは心配しなくてもいいと思います。

2つ目は資料2の5の参加者募集方法について、これもご指摘ありましたが、これだけでは参加者が多分来ないし、ワークショップには意見を聴きたい方にも来てもらった方がいいと思うので、別途区長さんや地域で活躍されている方へ声をかけていただいて、いろんな意見があることをワークショップの中で確認していただければいいと思います。

#### 【若狭委員】

「公共施設マネジメントゲーム」という単語や2回3回のテーマにある「ポスターセッション」という言葉がありますが、具体的にどのようなことをイメージしているのか教えてください。

#### 【事務局】

公共施設マネジメントゲームについては、他自治体が作成したボードゲームがありまして、これを使って同じようなワークショップをやった事例があります。

ボードゲームの内容は、決められた時間、資産の中で、建物を維持していくのが目的です。人口が減ると当然、保有資産が減り、維持できる施設が減っていきます。それぞれの施設によって維持費が違っているので、残る施設が自分の意図しているような施設にならずに将来像が変わってしまうわけです。公共施設のマネジメントが非常に難しいことについて、ボードゲームを使って理解していただくことを考えています。

ポスターセッションについては、ワークショップで話し合ったことをふせんに書いて貼ったりして模造紙などにまとめてもらって、自分たちの成果がポスターとして見えるような形で整理するやり方を想定しています。地域会でポスターを見せながら発表して、全体会の第4回は、各地区のポスターを会場に貼って、考えた成果を各地区の参加者がお互いに見ることができるような形にして発表することを想定しています。

#### 【議長】

ワークショップでやることをアナウンスしていると思いますが、参加するメリットがはっきりしなかったり、ワークショップの目的が明確でないと参加するモチベーションも上がらず参加しづらいと思います。

結局集まってくるのは、何か言いたい年配の方ばかりで、働き盛りの若い方は通知が来たけど面倒くさいから参加しませんとなりかねないので、メリットや目的を明確にした方がいいです。

#### 【事務局】

小学生に関しては、5つの小学校への出前講座という形で佐倉市の公共施設の現状について説明して、小学生からもいろいろ意見をもらいました。

出前講座の中では、今後佐倉市全体でのワークショップが開催されることを紹介して募集しています。

#### 【議長】

若い方や子ども達のグループと、その上の年齢の方が議論する内容は違って、上の年齢の方がよりシビアになると思います。

上の年齢のグループでは、本当に財政が厳しい中でどうするか、もうこれは統廃合や廃止に決めていいというような結構シリアスな話になるでしょうし、子ども達のグループでは、お金がないから学校を廃校にしますみたいな話はなかなかできないと思いますので、もうちょっと夢のある、例えば「新しくセンターや学校を作り直すとしたらどんな場所・学校がいいか」、「こんな活動があったらやってみたい」といった前向きなテーマになると思います。上の年代と下の年代で内容を変えなければなかなか難しいと思います。

本来であれば参加者を募集するときに上記のようなテーマを明確に伝えないと、何をやっているかよくわからないということになると思いますので、その辺は事前に方針を固めておいた方がいいと思います。

#### 【東條委員】

ワークショップの中で説明をするときに、目的について資料を投影したり配布したりすると思いますが、どのような形にすることを考えているか教えてください。

あとポスターセッションというやり方であれば、何か課題があって、それに対しての意見を出していくという進め方をすると私は解釈しましたが、課題はある程度お考えのものがあるかについても教えてください。

#### 【事務局】

まず1点目の、資料としてお出しするもの、目的を参加者に説明する際に提示を考えている資料についてということによろしいですか。

### 【東條委員】

ゲームをやることで財政が厳しいという認識を共通のものとしていきたいという話であれば、何かしらお伝えする内容があると思いますので、こういった資料でお話しするのか教えてください。

### 【事務局】

お出しする資料の1つは公共施設等総合管理計画です。この計画の中で、将来的な財政の見通しを表で示しています。この計画は資料としても、冊子として提供できますし、映像でも表示することができて、今のままの施設を維持していくと、いくら予算が足りなくなっても、この辺りで破綻してしまうという将来の状況が説明できます。

それから今作成している公共施設再配置方針の中間案も、地区ごとの施設の統廃合などの行政案としてお示しします。あとはアンケートについても、集計結果を中間案の資料編の中に掲載してお示しします。

子どもたちのグループはこれらの計画を理解するのもなかなか難しいと思うので、小学校に出前講座を行った際の子ども向けの資料もありますので、その資料を示すことも考えています。

### 【議長】

佐倉市の財政状況が大変といった現状を理解してもらうことは必要だと思いますが、ワークショップで集まってもらってその現状を理解してもらうだけでは不十分だと思います。

要望やアイデアを市民の方からいただくことが重要だと思いますので、「市の財政は大変ですよ、この施設はクローズして、これは統合して、市ではこんなことを考えてますよ」といった計画を示して、それで参加した人が「はいわかりました、しょうがないですね」で終わると、単なる説明会になってしまうので、何を市民に求めるのかという点が重要だと思います。

市の現状をわかって欲しい、市の財政が大変だということを理解していただけたら目的達成ということであれば、ワークショップをしなくても、広報で「佐倉市危機！」みたいな記事をどんどん流せばいいですよ。

それよりも「ここは大事にしよう」、「これは廃止になってもしょうがないね」といったご意見をいろいろ挙げてもらい、それを参考にして方針を見直していくこととした方がいいと思います。結論が決まっていて、何か言っても全然取り上げてもらえないなら参加しても無駄だと思われると思います。そうではなくて、意見を参考にこういう部分に関しては少し見直しをかけていく方針だといったところがわからないと、何を言っているのかわからないと思

います。世代の差もあるでしょうが、エクスキューズの場合だけになるのは好ましくないとします。

#### 【事務局】

我々が方針案を示すことは、将来的に市が統廃合などをしていく方向性を示すこととなります。それをご覧になられた参加者の方は、それについて質問なり、反対意見が出るとは思いますが、「反対意見について別案はこういう案があるのではないか」、「このレベルだったら納得できる」といった話し合いの場になると我々は考えています。こちらの意見を一方的に押し付けて話をするつもりはありません。方針案に対して全く違う案も出るかもしれませんが、意見はいただきたいです。ワークショップを一方的な説明の場にするとは考えていません。

1つのことに帰結するワークショップになるとは思っておりませんし、参加される方が、年代ごとにいろいろな意見を出していただける、そういったいろいろな意見が出る場ということがまず大事だと思います。参加者からいろいろな意見が出てきた中で、納得できる部分や合意点を互いに探っていくのがこのワークショップの中で大事になってくると思います。

その結果、意見の一部でも採用できればと思いますが、いろいろな意見が出てくるものだということがまず大事で、市民の方にもご理解いただいた上で実施できればいいと思います。このワークショップだけで全ての方向性を示すことは考えておりません。

#### 【議長】

ワークショップは参加者も限られていますし、多数決でこういう意見が多いから採用するというだけでもないので、アイデアや意見を実際の施設を利用している当事者から聴くということもあると思います。

一方で単に「何か意見ありませんか」、「アイデアありませんか」と言われてもなかなか出ないでしょうし、私でもそんなに意見は出せないと思います。佐倉市に長年住んでいる方もそうそう意見が出ないと思いますので、ある程度オプションを示してあげる必要があると思います。例えば、問題を解決するには、その利用料金の受益者負担を上げることも考えられるかもしれませんが、思い切って建物を売却する、又は施設を統合する、といったいろいろなオプションを例として示してあげると、意見やアイデア、解決策につながるヒントになると思います。

#### 【事務局】

佐倉市としてこう考えていると言ってしまうと、「やっぱりもう決まってるんじゃないか」という話になるおそれがありますので、例えば全国的に成功した事例や、失敗した事例がいろいろあると思うので、全体会の中でそういう事例を提示して、第2回、第3回の地域会に入るような形になればいいと思います。

また、先ほど公共施設マネジメントゲームについてご説明しましたが、我々職員もやってみたところ、ほぼ破綻する結果でした。このゲームは破綻しなければいいというのではなく、まちづくりを考えながら施設を運営する側を体験していただいて、それから自分たちの地域の施設をどうしようか、市全体を見てどうするか考えていただければと思います。

このゲームを通して参加者の皆さんが体感で、少子高齢化の中、お金を気にして施設を運営していくというのは本当に大変だということを感じて、さらにそのゲームの結果が現実になりかねないという危機感を持っていただきたいと思います。このゲームはそんなに難しいものではないですし、比較的小子どもから大人まで理解しやすいと思います。

第1回では全国で実施された手法や事例を皆さんにご紹介してその手法を感覚的に理解していただき、概ねご理解いただいた上で、第2回以降これを踏まえて各地区で考えていただく予定だということを説明する予定です。

小学校の出前講座については、5地区の中の各地区1小学校に、1コマ60分程度で、まだ公共施設を勉強していない5年生を対象に、身近にある公共施設の目的などを示して、なぜ公共施設があるのか、誰がいつどのように使っているかについて子ども達に考えてもらいました。その中で、今回のアンケートでもあまり知らなかったと言われた問題（①人口減少・少子高齢化、②収入減・支出増のお金の問題、③公共施設の老朽化）についても説明をして、学校の課題に置き換えてこれを解決するにはどういう方法がいいだろうか、というグループワークをやってもらいました。このような流れでお互いの意見の共有を進めてもらい、最後に市が今後ワークショップを実施する予定についてご案内をしました。学校でプレワークショップの形で講座をやって、来年度のワークショップに向けて、少し理解を深めてもらう狙いがあります。

**【議長】**

今度のワークショップはこの内容で実施するのでしょうか。

**【事務局】**

この出前講座はやりません。あくまで、小学生たちに少しでも先に理解していただくということで行ったものです。

**【議長】**

先ほどのゲームにしても、いろいろな世代が来るということで、皆にわかるような形でレクチャーをしながら進めるということですね。

ここまではよろしいでしょうか。他に確認しておきたいことがあれば質問をお願いします。

**【大内委員】**

ワークショップは委員として傍聴することはできますか。

**【事務局】**

傍聴は基本的にできません。応募していただければ参加できます。

**【大内委員】**

参加されている皆様のご意見がどんな感じなのか、できれば聴いてみたいと思いましたが、わかりました。

**【事務局】**

誰でも傍聴可能にしますと、ワークショップに参加していない大人に囲まれて、特に子どもたちが言いたいことを言えなくなってしまうのではないかと懸念していますが、この審議会の委員であれば、例えば事務局として参加してワークショップの会場に入る方法もあると思います。検討させていただいて、改めてご報告いたします。

**【議長】**

委員の方は事務局という形であれば問題ない気がしますし、状況を見てワークショップでいろいろご意見を言ってもらえますので、アドバイザー的な立場で会場に参加いただいた方がいいと思います。

それでは、ワークショップの内容については引き続き検討が必要だと思いますが、とりあえずこの方向で進めるということではよろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、事務局提案のとおり進めていくこととし、内容について引き続き検討していくことに決しました。

**【議事③ 佐倉市公共施設再配置方針（中間案）について】**

**【議長】**

議事③につきましては、佐倉市情報公開条例第7条第5号及び第6条に規定する不開示情報に該当する事項が含まれておりますので、非公開となります。公開の審議は以上となります。